

# 第4回「投資信託に対する意識調査」 調査報告書

2008年5月

野村アセットマネジメント株式会社

調査目的 :

## 日本における「長期投資家層」拡大の可能性を探る

続く低金利、インフレによる生活コストの上昇、年金や社会保障制度の崩壊などが語られる中、一般生活者は“長生きのリスク”にさらされている。将来にわたる経済的な不安に対処するには、長期的な視野を持った資産運用が有効な策となろう。

ただし日本において「長期投資」の概念は広まり始めたばかりである。当社としては、長期投資にあたって必要な発想や行動様式 個々人の状況に合わせたポートフォリオを選択する、リスクと向かい合う、環境の激変にも柔軟に対応する等 について、より広く提案していく必要性を感じている。そのために、投資家を取り巻く環境を明らかにする必要があると考えた。

日本に「長期投資」の概念を広め、長期投資にあたって必要な行動や発想を身につけた投資家 = 「長期投資家」層を拡大するにはどのようなアプローチがあるのか。その方策を探る足がかりとして、今回の意識調査を位置づけている。

調査の枠組み : 定性調査および定量調査による

(1)グループインタビュー	2007年11月9日(金)～16日(金)	モニター数 48 (8グループ)
(モニター内訳: 保有者グループ: 30代男性、30代女性、40代男性、40代女性、団塊男性、団塊女性)		
保有者 / 非保有者半数ずつのグループ: 30代有職者女性、40代有職者女性)		
(2)インターネット調査 - 基礎調査	2008年1月18日(金)～24日(木)	サンプル数 約5万
(3)インターネット調査 - 本調査	2008年2月1日(金)～6日(水)	サンプル数 2000

## グループインタビュー結果 “私と投資信託”を語り始めた顧客の姿

●総じて「投資リテラシー」は高い。顧客は自分なりに投資信託を使い始めている。

個の時代における  
生き方

「自分」を取り巻く環境から、自立して「自己実現」を目指す生き方が広がっている。30歳代では、自分なりの「仕事・会社との関係（ワーク・ライフ・バランス）」を模索し、40歳代では、家族の成長と共に自分の趣味や将来の自分の姿を想像し始めている。また退職期前後の世代では、定年後の生活での自分の生き方を模索する姿が見受けられた。

情報過多時代におけるリテラシーの高さ

IT時代において、大量の情報から自分に必要な情報を取捨選択・活用を行う資質を身につけている。生活者として身につけた情報リテラシーを、投資行動についても活用しようとする姿が見受けられる。

投資信託の  
「一般常識」化

投資信託世代の誕生。投資信託の商品性（グローバルな投資機会の提供、分配金による投資の実感、バランスFによる資産分散の簡単化など）による投資の喚起や資産運用の大衆化が進んでいる。「貯蓄から投資へ」実践している姿が見られた。

## インターネット調査結果 一般生活者の中で存在感を増している“投資信託”。

“投資信託”は「分散投資に役立つ」などのメリットが認識され、幅広い層が興味を持つ。保有割合なども安定してきており、一定の存在感を持ち始めたと言えよう。2007年以降の相場調整は大部分が静観した様子。「長期投資」というメッセージが届いていたという見方もできる。

投信に一定の存在感  
運用会社への意識も

**家計の金融資産における投資信託の割合は4分の1前後**、といった感覚が広がっているように見える。また「分散投資ができる」「長期投資するもの」といったイメージが浸透してきた。投資信託が一定のイメージを持って存在感を増している。

相場調整を静観した  
投資家たち

2007年後半以降の相場調整において、**投信保有者の45%は「過度に反応する必要はない」との回答**をした。一方で、リスクがあり怖いと感じた投資家もいれば、長期投資を考え「割安になりチャンス」ととらえる投資家も。

興味さえ持てば  
購入のハードルは低い

**全国25～69歳を対象とした調査で、投資信託の認知率は6割近く**。全体の2割が「興味がある」と答え、購入に踏み切っている。**興味さえ持てば、購入へのハードルは低い**様子。さらに保有者の10人に1人は周囲に推奨した経験がある。総じて肯定的な受け入れられ方をしていると言えよう。ただし性別では女性、年代別では30代以下の認知率が低い。

# 金融商品浸透度

人口構成比率にあわせた4万サンプルに対して、本調査の対象者を抽出するためのスクリーニング調査を実施した。これらのサンプルに対して、付加的に各種金融商品の浸透度を調査した。本章はその際の結果である。

実施時期：2008年1月18日（金）～1月22日（火）

有効回答数：38299サンプル

男性/25-29才	2164
男性/30-39才	4812
男性/40-49才	4089
男性/50-59才	4876
男性/60-69才	3969
女性/25-29才	2104
女性/30-39才	4718
女性/40-49才	4058
女性/50-59才	4943
女性/60-69才	2566
全体	38299

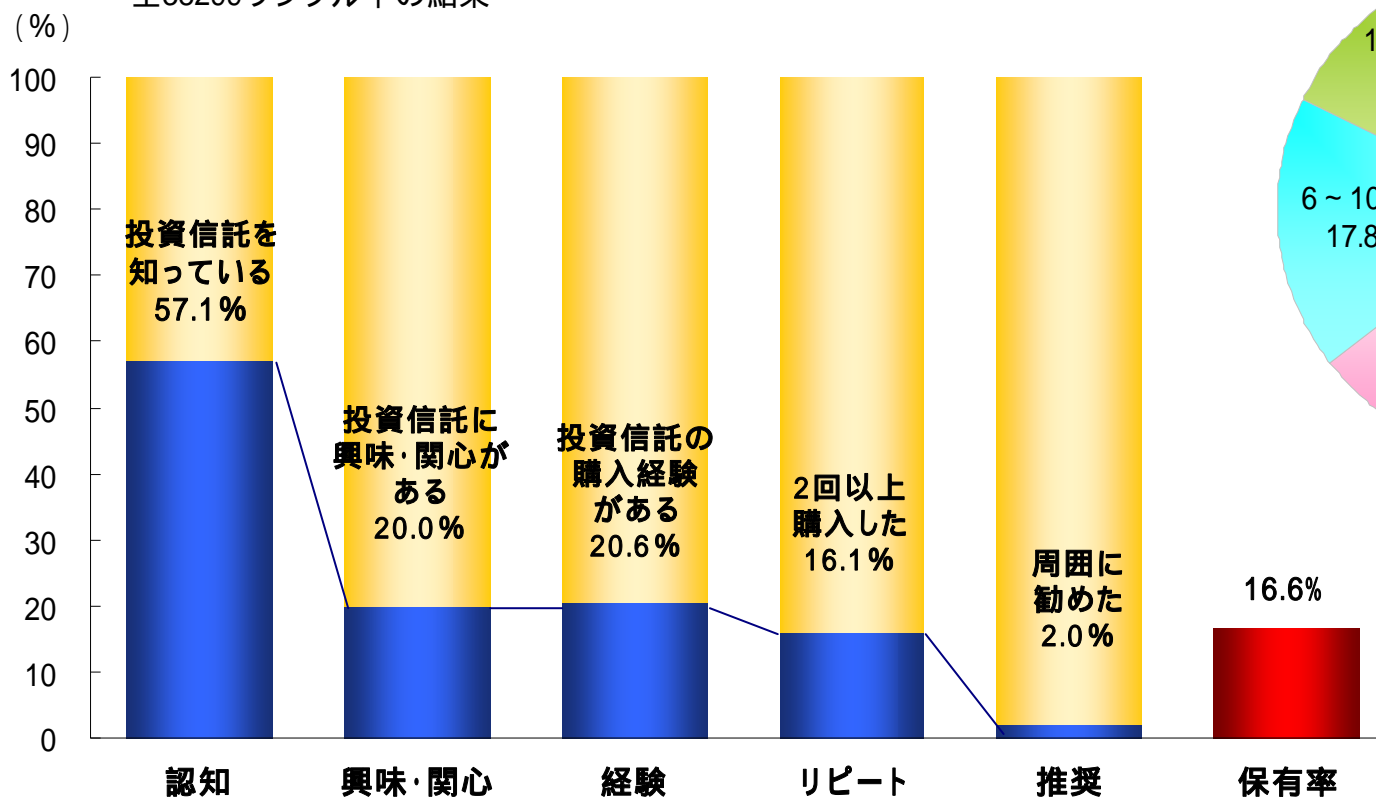
女性60代は4267サンプル必要であったが、モニタ数が不足していたため、可能な限りの回収とした。

# インターネット基礎調査 投資信託の認知から購入まで

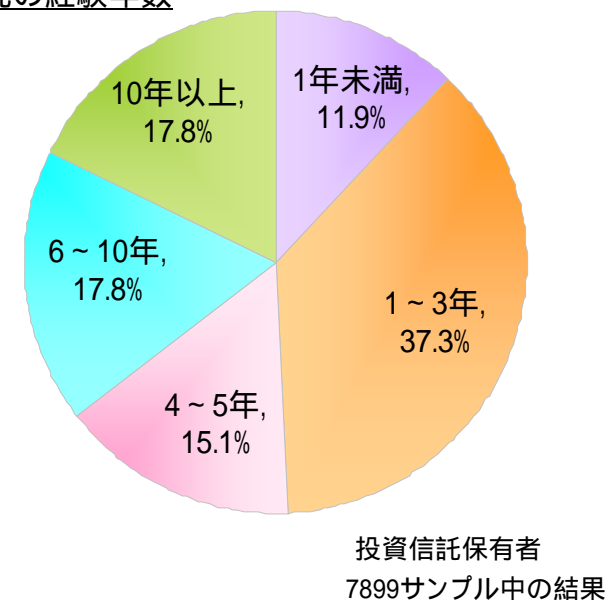
- ◆「投資信託を知っている」という時点で、全体の57.1%まで減ってしまう。まずは認知度を高めていくことが課題。
- ◆「興味・関心がある」と答えた割合と、「購入経験がある」と答えた割合がほぼ等しいことから、興味を持ちさえすれば購入しやすい環境は整っていると考えられる。ほとんどが「2回以上購入」していることから、リピートにも結びつきやすい。

## 投資信託の認知から購入行動まで

全38299サンプル中の結果

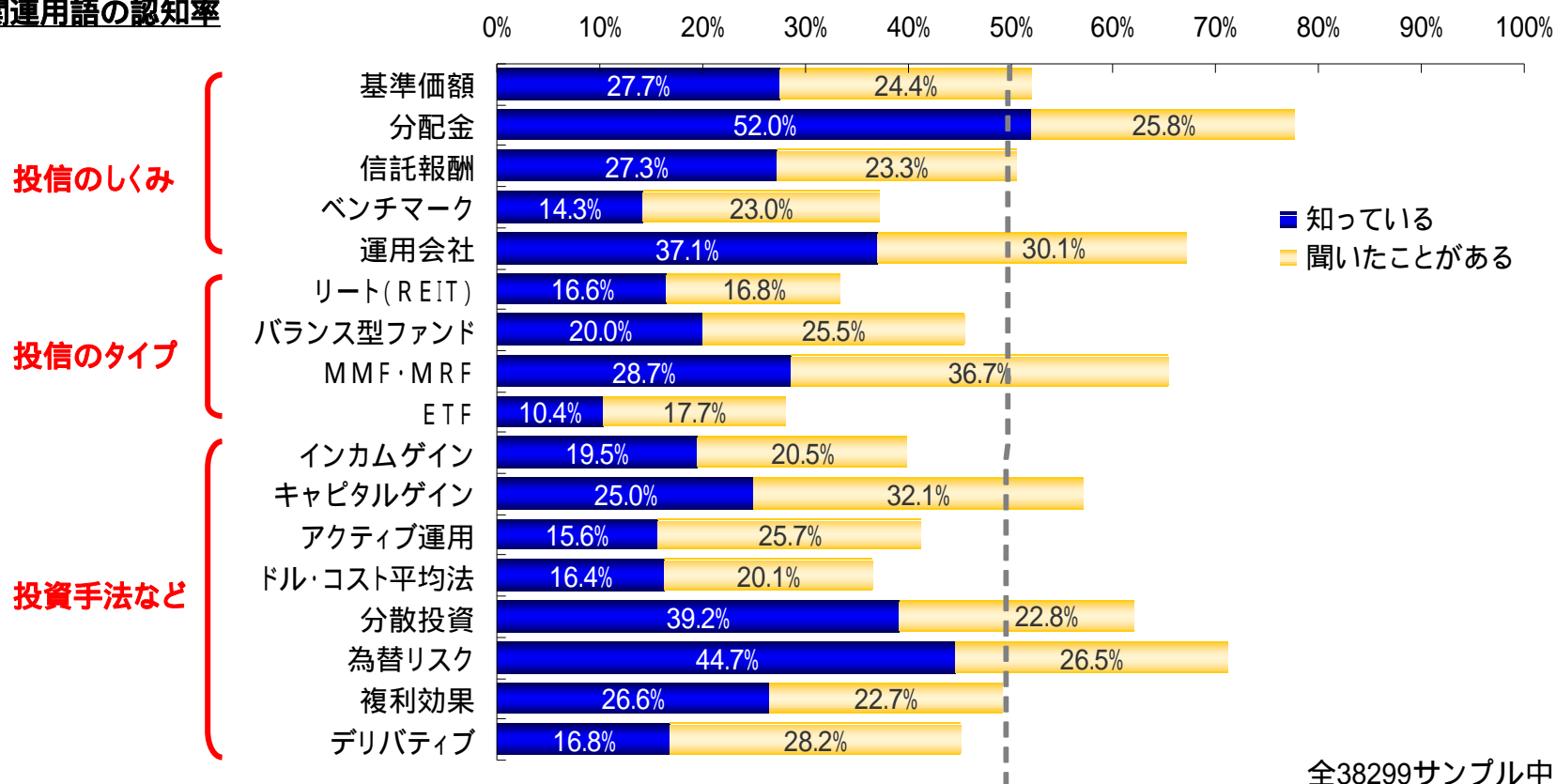


## 投資信託の経験年数



◆投資信託の保有 / 非保有の区別なく4万サンプルに対して調査した結果、「分配金」という用語の認知率が77.8%と非常に高かった。内容まで知っていると回答した割合も52.0%と半数以上。「基準価額」の認知率(52.1%)と大きな差がある。  
 ◆「運用会社」という言葉の認知率は67.2%。投資信託を保有していない層も、言葉を目にしたことはあるようだ。  
 ◆「ドルコスト平均法」(36.5%)、「複利効果」(49.3%)など、投資手法に関する用語について意外と認知度が高い印象。

## 関連用語の認知率



全38299サンプル中の結果

# インターネット本調査結果

投資信託を世帯で所有しており、世帯で金融商品を購入する際に主体的に関与している者

投資信託を世帯で所有していないが、今後保有意向がある、または興味・関心がある者で、世帯で金融商品を購入する際に主体的に関与している・家族とともに関与している者

実施時期：2008年2月1日～6日

属性・サンプル数：30～69歳の男女、2000サンプル

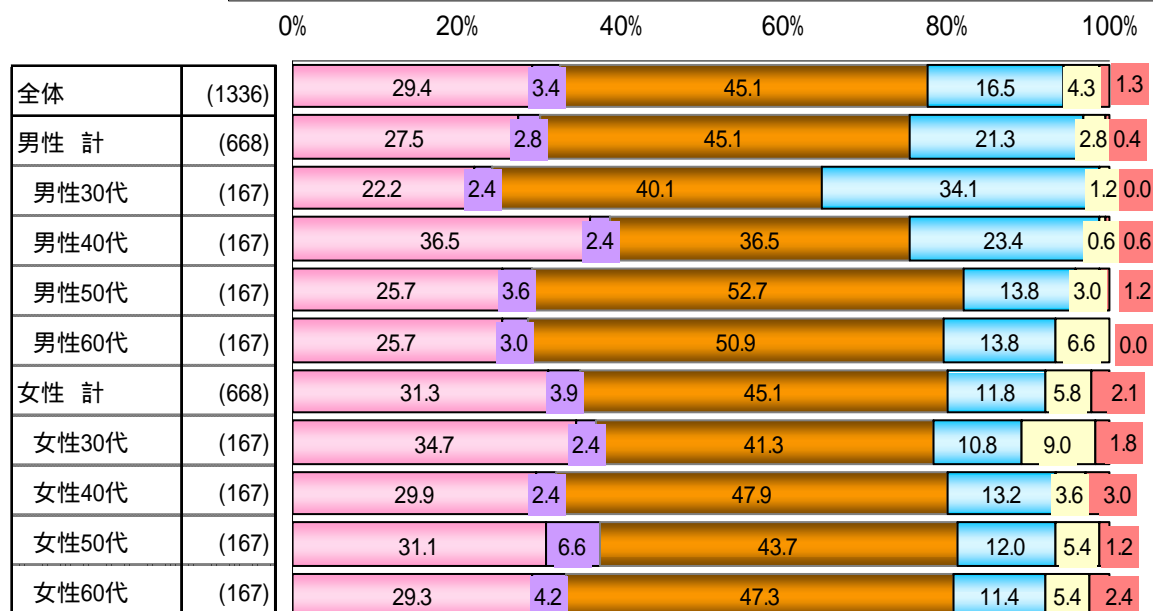
	N		N
男性 30代 投資信託保有者	167	男性 30代 投資信託意向者	83
男性 40代 投資信託保有者	167	男性 40代 投資信託意向者	83
男性 50代 投資信託保有者	167	男性 50代 投資信託意向者	83
男性 60代 投資信託保有者	167	男性 60代 投資信託意向者	122
女性 30代 投資信託保有者	167	女性 30代 投資信託意向者	83
女性 40代 投資信託保有者	167	女性 40代 投資信託意向者	83
女性 50代 投資信託保有者	167	女性 50代 投資信託意向者	83
女性 60代 投資信託保有者	167	女性 60代 投資信託意向者	44
<b>投資信託保有者 計</b>	<b>1336</b>	<b>投資信託意向者 計</b>	<b>664</b>

# 2007年以降の金融市場に対する投資家の意識

- ◆投資信託保有者は、「過度に反応する必要はないと思った」45.1%で半数弱を占め、「思った以上にリスクがあり、怖いと感じた」29.4%、「投資のチャンスだと思った」16.5%が続く。
- ◆性年代別で見ると、男性は女性よりも「チャンスだと思った」とポジティブにとらえた割合が高い。特に男性若年層ほど高い傾向。

Q46. 2007年以降に起こった金融市場の動きについて、どのように感じましたか。最も近いものを選んでください。  
(投資信託保有者)

- 投資には思った以上にリスクがあり、怖いと感じた
- 今後、リスクがある金融商品には一切手を出したくないと思った
- 相場は下がるときがあれば上がるときもあるので、過度に反応する必要はないと思った
- 割安な投資先が増え、投資のチャンスだと思った
- ニュースなどで情報には触れていたが、自身の投資活動とは関連付けて考えなかった
- どのような動きをしていたのか、ほとんど知らない





# 投資信託に対するイメージ

- ◆投資信託のイメージとして、「分散投資に役立つ」というメリットが1位に挙がった。次いで「世の中の動きに左右される」「リスクが大きい」。「長期保有する」ものというメッセージも3割以上の方に伝わっている。
- ◆株式や外貨預金に対しては「リスクが大きい」というイメージが強い。特に株式については73.3%が「リスクが多い」と回答している。

各アセットクラスに対するイメージ(複数回答)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
投資信託	分散投資に役立つ	世の中の動きに左右される	リスクが大きい	長期保有する	時々見直す必要がある	資産が殖やせる	利回りがよい	魅力がある	手軽に購入できる	少額でも購入できる
	42.7	42.6	35.3	34.4	33.8	32.7	24.2	21.0	17.6	17.6
預貯金	堅実	安定している	誰もが持っている	知識がなくとも購入できる	自分にとって身近	自分でできるもの	換金しやすい	手軽に購入できる	少額でも購入できる	商品内容が分かりやすい
	73.6	71.8	53.2	49.3	47.7	42.0	41.3	37.8	32.7	30.5
株式	リスクが大きい	世の中の動きに左右される	資産が殖やせる	時々見直す必要がある	短期で売買を繰り返す	大きな資金が必要	魅力がある	長期保有する	分散投資に役立つ	リスクが分かりやすい
	73.3	61.4	32.2	31.5	29.4	24.3	22.9	22.1	21.8	20.9
外貨預金	リスクが大きい	世の中の動きに左右される	利回りがよい	時々見直す必要がある	分散投資に役立つ	資産が殖やせる	魅力がある	リスクが分かりやすい	自分でできるもの	あてはまるものはない
	46.6	41.9	30.1	20.7	20.6	17.8	16.7	13.1	12.4	11.7
公社債	堅実	安定している	長期保有する	分散投資に役立つ	老後の生活設計に使う	資産が殖やせる	あてはまるものはない	自分でできるもの	知識がなくとも購入できる	商品内容が分かりやすい
	48.2	45.9	35.5	17.2	17.0	14.2	13.8	13.6	13.2	12.3

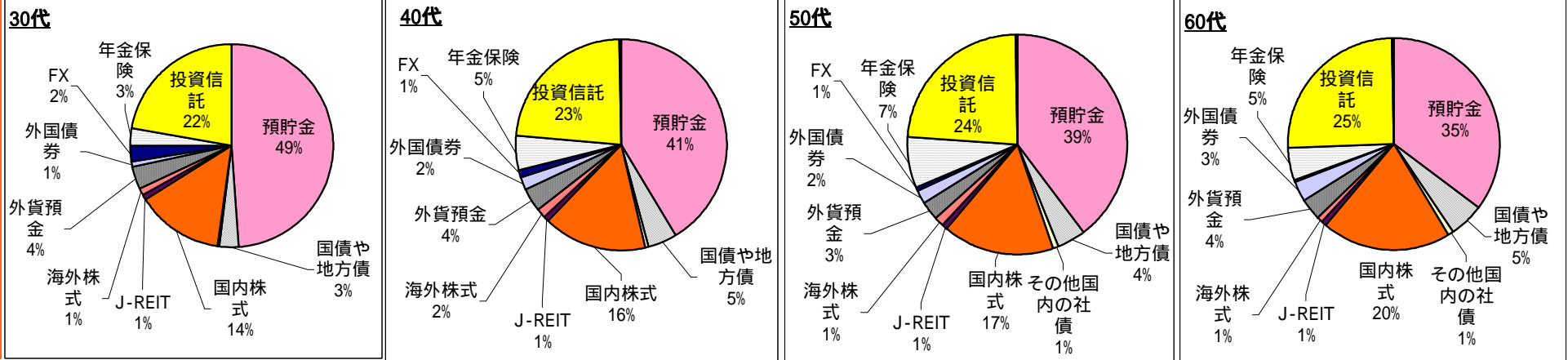
# 家計資産状況(年代別 / 投資信託保有・非保有)

- ◆世代間で比較すると、年齢が上がるほど資産分散が進んでいる。若年層ほど安全資産への偏りが見られる。
- ◆投資信託保有者には、投資信託保有をきっかけとして「貯蓄から投資へ」の流れが浸透しつつある様子。
- ◆投資信託非保有者の資産構成は「預貯金か株式か」の二者択一に近い。若者層ではFX(外貨証拠金取引)の割合が相対的に高い。

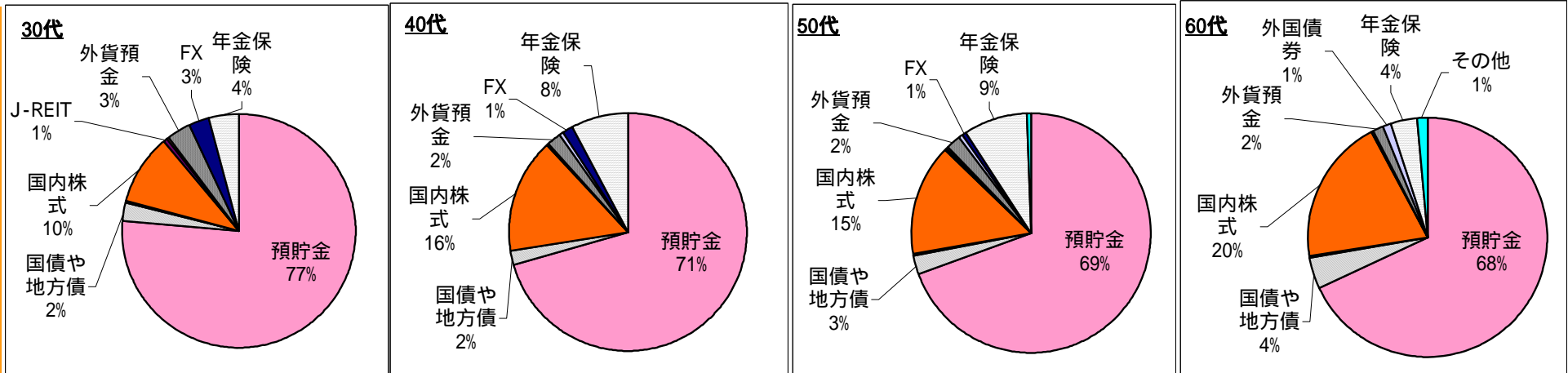
Q3 あなたのお宅で保有されている金融商品はどのような配分になっていますか。合わせて100%になるようにお答えください。

保有者・各年代334サンプル、非保有者・各年代166サンプル

## 投資信託保有者



## 非保有者(意向者)



# 家計資産状況(世帯年収別)

- ◆世帯年収による資産構成の違いはあまり見られなくなった。国内株式のみ、世帯年収が高いほど、構成比が上がる。
- ◆前回調査では、世帯年収が上がるほど投資信託の構成比が下がる傾向が見られたが、今回の結果では関連は見られない。

## 世帯年収別

Q3 あなたのお宅で保有されている金融商品はどのような配分になっていますか。合わせて100%になるようにお答えください。

### 世帯年収別 投資信託が占める割合

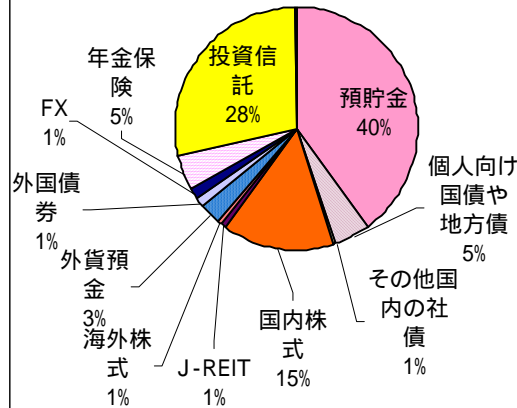
400万円未満	28.1%
400～600万円未満	22.8%
600～800万円未満	22.9%
800～1000万円未満	22.9%
1000～1200万円未満	19.6%
1200～1400万円未満	27.4%
1400万円以上	20.4%

### サンプル数(投信保有者)

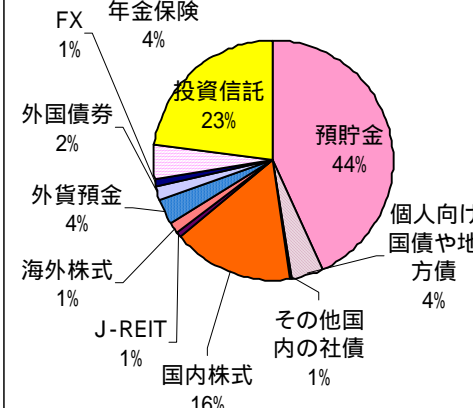
全体	1218
400万円未満	221
400～600万円未満	272
600～800万円未満	255
800～1000万円未満	210
1000～1200万円未満	107
1200～1400万円未満	48
1400万円以上	105

グラフは結果の抜粋を掲載

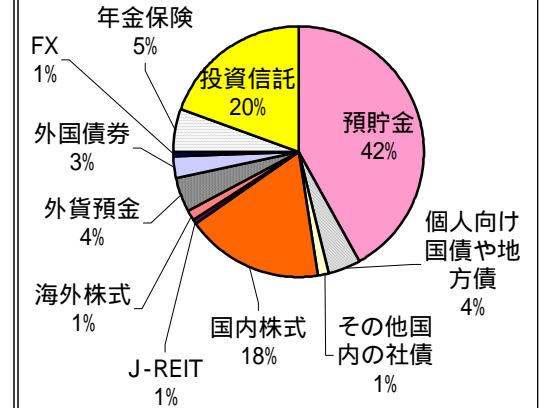
### 400万円未満



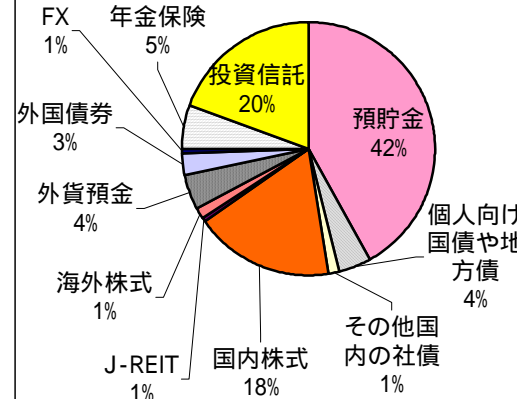
### 600～800万円未満



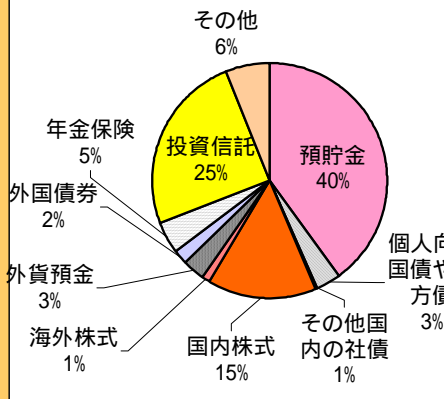
### 1000～1200万円未満



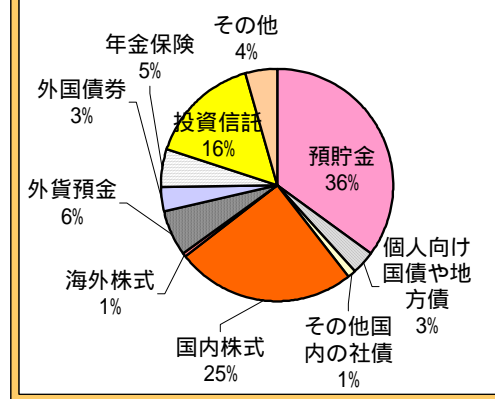
### 1400万円以上



### (参考) 前回結果・400万円以下



### (参考) 前回結果・2000万円以上



注) 前回は選択肢にJ-REIT、FXを設けていない。

# 家計資産状況(投資信託経験年数別)

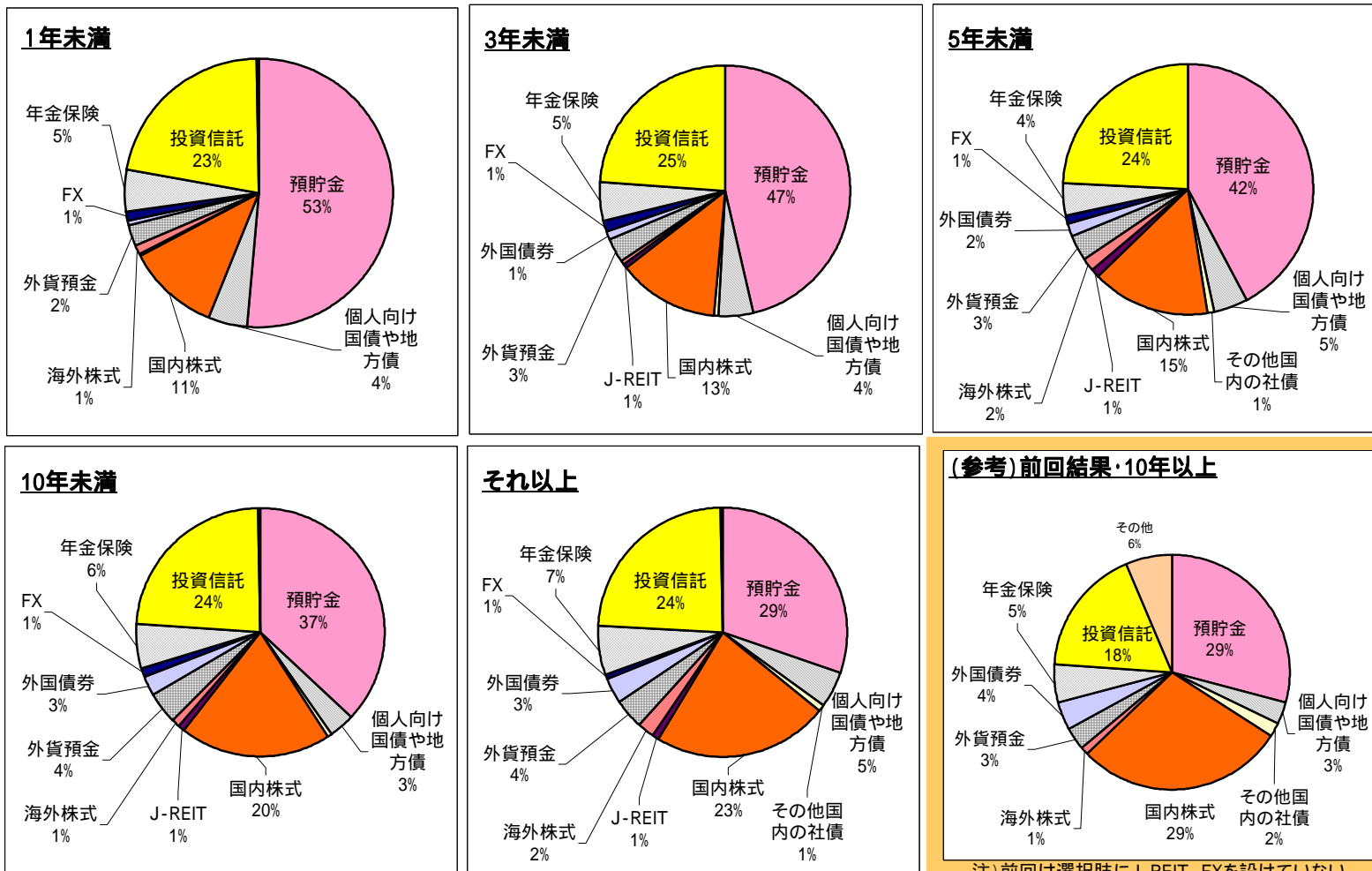
- ◆投資信託の経験年数(保有期間別)に家計資産の構成を見ると、経験が長いほど証券投資の割合が高まる。安全資産の割合に大きな違い。
- ◆投資信託が占める割合は、経験年数にかかわらず約25%程度。昨年と比較して、ベテラン層で構成比が高まった。

## 投資信託経験年数別

Q3 あなたのお宅で保有されている金融商品はどのような配分になっていますか。合わせて100%になるようにお答えください。

サンプル数(投信保有者)

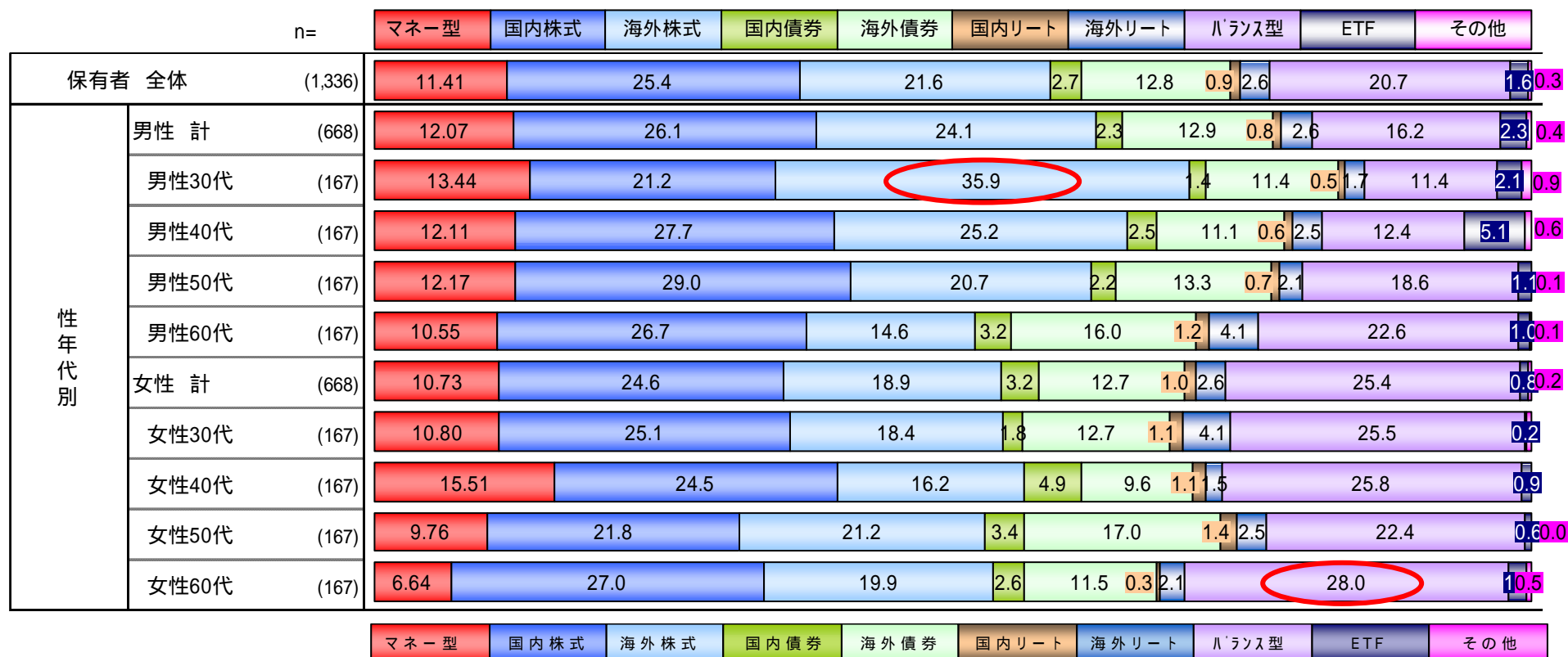
全体	1336
1年未満	142
3年未満	298
5年未満	436
10年未満	255
それ以上	205



# 保有投資信託タイプの内訳(年代別)

- ◆男性は総じて株式型の保有割合が高いが、特に30代で「海外株式型」の保有割合の多さが目立つ。仮説として、“エマージング”などのキーワードに反応した可能性がある。
- ◆一方、女性は「バランス型」に好反応を示している。特に女性60代の保有割合が最も高く、平均を大きく上回っている。
- ◆「リート型」は男性60代、女性30代で保有割合が高い。

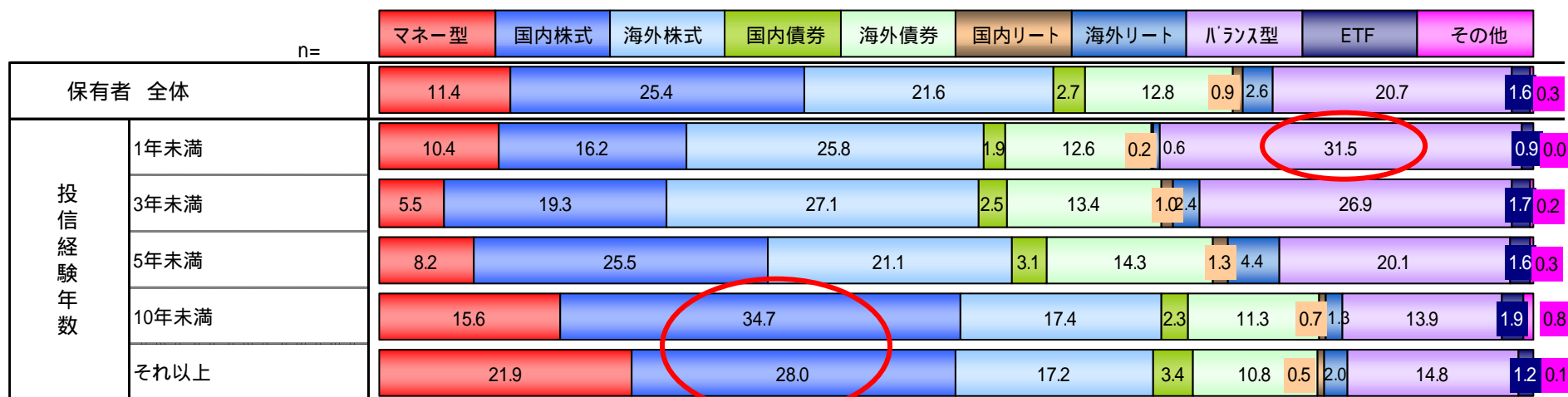
Q6 あなたのお宅で現在保有されている投資信託は、どのような配分になっていますか。合わせて100%になるようにお答えください。



# 保有投資信託タイプの内訳(投資経験年数別)

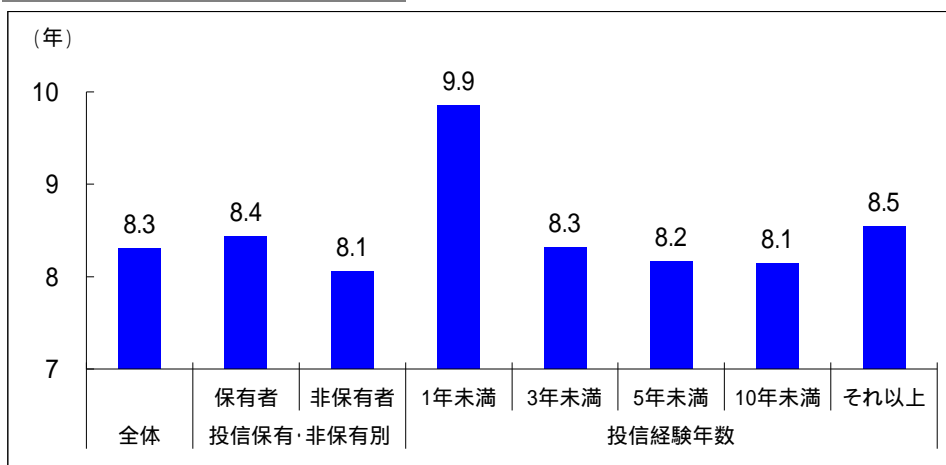
- ◆初心者で「バランス型」の保有割合が高い。1年未満では、平均よりも10%以上上回っている。海外株式型も人気。
- ◆投資信託経験10年程度のベテラン勢では、「日本株式型」が保有投資信託の中心になっている。マネー型の比率が高いのは、投資先として保有しているケースと、株式購入等の待機資金となっているケースがあると思われる。

Q6 あなたのお宅で現在保有されている投資信託は、どのような配分になっていますか。合わせて100%になるようにお答えください。



- ◆長期投資のイメージは、全体で8.3年。投信保有者の方が非保有者よりも長く、男性より女性の方が長い。
- ◆投資信託初心者の回答平均が9.9年であり、平均と比べて1年以上長い。「投資信託＝長期投資」のメッセージを受け取っている様子。
- ◆投資信託保有者は、年齢が下がるほど長期の軸が長い(前回調査とは逆の結果)。投資教育の成果が表れている可能性がある。

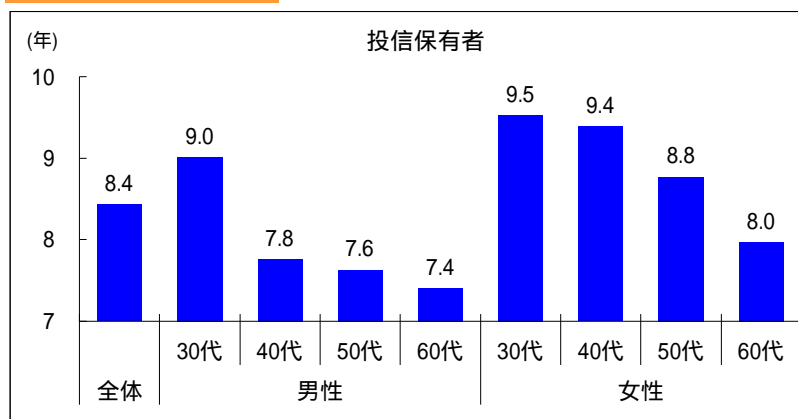
Q16. 金融商品を保有する場合に、「長期投資」といえば、どれ位の期間をイメージしますか。



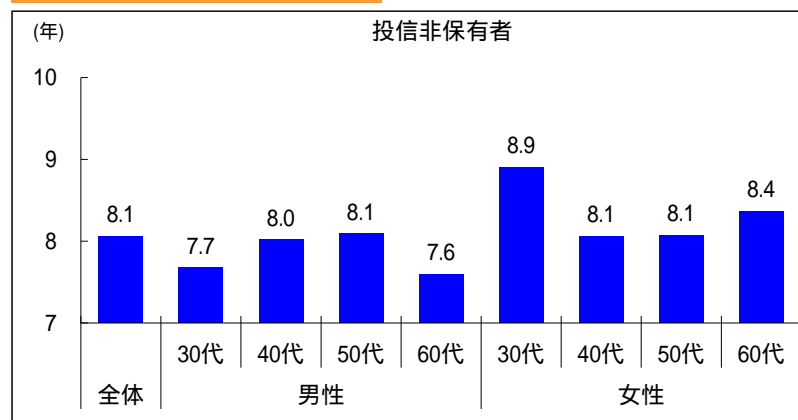
### グループインタビューコメントより

将来の収入が計算できない。昇給が見込めないで、仕事以外に収入を考えなければならない(30代男性)。日本での老後は不安(30代女性)。日本株式がリスクがないのかなと思ってやったら失敗。長期で考えたら安全だと思う(40代男性)。将来設計は主人より私の方が考えていると思う。今は金利が低いので私なりに運用している(50代女性)。漠然とした将来の不安のために資産運用をしている(60代女性)。

### 投資信託保有者



### 投資信託非保有者(意向者)



# シニア世代の退職金事情

◆退職金を「まだ受け取っていない」者のうち、自身の退職金の金額を知っているのは63%にとどまる。投資信託保有別で差は見られなかった。  
 ◆退職金受給者計の退職金金額の平均は2022万円であった。退職金額の平均は、投資信託保有者のほうが意向者に比べて600万円弱高く2195万円であった。

## 退職金を受け取ったか 50代以上ベース

- 既に受け取った
- まだ受け取っていない
- 退職金はない / 退職金を受け取る予定はない

		n=	(% )		
全体		(1,000)	48.6	22.5	28.9
有・投 別・信 保・保	投資信託保有者	(668)	51.0	21.6	27.4
	投資信託非保有者	(332)	43.7	24.4	31.9

Q63. 退職金についてお伺いします。あなたは退職金をすでにお受け取りになりましたか。  
 Q64. 退職金をまだお受け取りでない方にお伺いします。退職金はどれくらいもらえるかご存知ですか。  
 Q65. あなたの退職一時金の額を教えてください  
 まだ受け取ってない方は、受け取る予定の金額をお聞かせください。

## 退職金の金額認知 Q63 受給予定者ベース

- 知っている
- 知らない

		n=	(% )	
全体		(225)	63.1	36.9
保 有 有・投 別・信 非 保	投資信託保有者	(144)	63.9	36.1
	投資信託非保有者	(81)	61.7	38.3

## 退職金の額 Q63受給者・受給予定者ベース

- 100万円未満
- 100～300万円未満
- 300～500万円未満
- 500～700万円未満
- 700～1000万円未満
- 1000～2000万円未満
- 2000～3000万円未満
- 3000～5000万円未満
- 5000万円～1億円
- 1億円以上
- わからない・答えたくない

		n=	(% )										ウェイト平均 (万円)
全体		(711)	4.2	2.8	4.2	3.5	5.9	20.4	22.4	12.4	1.4	22.8	2022.22
非 投 保 信 有 保 別 有	投資信託保有者	(485)	3.7	1.9	4.1	12.3	6.2	20.4	23.3	15.1	2.1	21.0	2195.30
	投資信託非保有者	(226)	5.3	4.9	4.4	6.2	5.3	20.4	20.4	6.6		26.5	1622.89



# シニア世代の退職金用途

- ◆退職金の用途が「ほぼ全額決まっている」は全体の48%。半数は用途を決めていない。
- ◆用途の内訳を見ると、全体では「金融商品」「投資信託」で平均36%、次いで「生活費」、「住宅ローンなどの債務の返済」などが続く。
- ◆運用方針は「ある程度リスクをとりながら」「積極運用」の合計が保有者で計54.1%、非保有者で30.1%。

Q66. 退職金をお使いになるご予定は決まっていますか。  
 Q67. 退職金の使い方の割合を合わせて100%になるようにお答えください。  
 予定が決まっていない方も、希望でお答えください。  
 Q68. 退職金の運用に関して、主にどのような考えに基づいて行いたいとお考えですか。

## 退職金の用途について

Q63受給者・受給予定者ベース

- ほぼ全額決まっている
- 一部の額は決まっていない
- 決まっていない

決ま  
つて  
い  
る  
計

		n=	%			
全体		(711)	48.2	14.3	37.4	62.6
保有・信託別	投資信託保有者	(485)	49.5	12.4	38.1	61.9
	投資信託非保有者	(226)	45.6	18.6	35.8	64.2

## 退職金の運用姿勢

Q63受給者・受給予定者ベース

- リスクを極力回避し、元本保証の預貯金のみで運用したい
- リスクを抑えつつ、元本保証の預貯金中心に低リスクの金融商品で運用したい
- ある程度のリスクをとりながら、元本保証の預貯金以外の金融商品でも運用したい
- リスク管理をしながら、積極的に運用したい

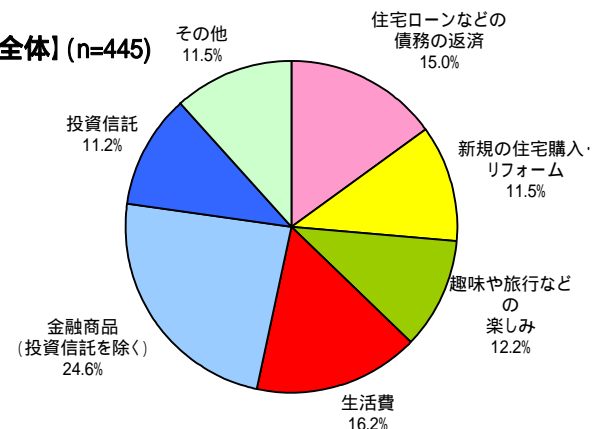
		n=	%			
全体		(711)	19.4	34.2	36.1	10.3
保有・信託別	投資信託保有者	(485)	13.8	32.2	42.1	12.0
	投資信託非保有者	(226)	31.4	38.5	23.5	6.6

## 退職金の用途内訳

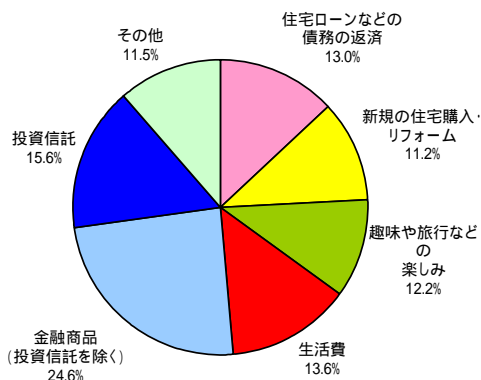
各項目の平均

Q66用途が決まっている者ベース

【全体】(n=445)



【投資信託保有者】(n=300)



【投資信託非保有者】(n=145)

